

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録

すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市本城町 113-1
発行人 武松 豊
編集責任者 金子俊彦



土竜(もぐら)の囁き

私の兄は戦時中に学徒出陣で陸軍航空隊に入隊した。幸い生きて帰還したが、聞けば振武特攻隊員であったとのこと。当時の戦友であった渡辺さんが終戦の翌年に親戚の人をひきつれて訪ねてみえた。その一人が女学生(現在の中学三年)さんであった。名前が香取日出子。この人を見たとき羨の立派さに感心させられた。聞けば彼女の先祖は現千葉県香取郡一帯のお殿様だったとのこと。お祖父さまは昭和天皇が皇太子時代、ヨーロッパ視察にお出かけのおり側近としてお供されたとのこと。当時のことだから充分身許が調査された上のお供だった筈である。

彼女は掃除の手伝いをしながら琴の曲(六段や千鳥の曲)や鈴掛けの道をハミングしていた。一週間程して東京へ一人で帰っていった。お手伝いさんの自転車の荷台に乗って黒髪を靡かせながら、見えなくなるまで手を振っていた。その日から六〇年以上たったが、今の日本に欠けている羨の大切さを思いだしている。